

聖心キャンパス



第191号の主な記事

- ・平成24年度聖心女子大学懇談会開催報告
- ・平成24年度協力会総会開催報告
- ・財務状況報告
- ・震災復興支援チャリティーデーの報告
- ・第48回聖心祭予告 等

平成24年度 聖心女子大学懇談会開催報告

副学長(学生担当) 岩上真珠

聖心女子大学懇談会が、今年も6月16日(土)に開催されました。これは、聖心女子大学の在学生の保護者の方々に、本学の教育をよりご理解いただくために毎年開催しているものです。今年はいくの雨模様にもかかわらず、252名の保護者の方々においていただきました。

11時から受付が開始されましたが、今年は、キャンパスツアーを午前と午後に行ったことに加えて、午前の部では、パレス見学と茶道愛好会によるパレスでのお茶席が設けられました。おかげさまでこれは好評だったようで、「パレスの建物の見学がとても素晴らしかったです。お茶席もゆつくり頂けました」という声をお寄せいただきました。またブルーパーラーでは、11時の開始から17時30分の終了まで終日、休憩室としてご利用いただくとともに、震災ボランティア関連のパネルを展示しました。



午後は、全体会に先立ってマリアンホールにて協力会の総会が開かれた後、全体会は14時20分から開始されました。岡崎淑子学長の挨拶に続いて、今年度は、本学歴史社会学科人間関係専攻教員で聖心女子大学東日本大震災復興支援活動推進会議の代表でもある菅原健介教授



による「東日本大震災への復興支援に関する大学としての取り組みについて」の報告があり、その中で、2名の本学学生によるボランティア体験が語られました。昨年の3・11以降、本学では、被災された人々に寄り添い、できることをやる、という学長の意思及び多くの学生の思いを受けて、マグダレナ・ソフィアセンターを中心に種々の震災復興関連のボランティア活動を行ってまいりましたが、今

年度は特に、UNESCOとの共催による陸前高田への学生のボランティア派遣も開始いたしました。全体会にご参加いただいた保護者の方々からは、「学長様のお話は『心』を大切にする聖心スピリットを強く感じる事ができました。それを受けての先生・学生からのボランティア・レポートは深い感動をいただきました。」「震災の支援活動については娘から聞いたことがなかったもので、大学での取り組みを写真とともに説明していただけたのでよくわかりました。」「東日本大震災の復興支援に関しての大学の取り組みが大変よくわかってよかったです。」

「震災復興支援の体験談が印象に残りました。」「学生さん2人のお話、感動しました。」といった多くのお声をいただき、本学の取り組みの姿勢にご理解と共感を頂戴して、有難く、またうれしく思っております。

全体会終了後15時30分からは、1年次生は宮代ホールで、また2年次生以上は各学科専攻に分かれて、それぞれ説明会がもたれました。キャンパスツアーに参加してくださった保護者の方からの「学生さんが一生懸命案内してくださいました。楽しく明るく感じが良かったです。どうもありがとうございます。当日手伝ってくれた在学生にとっても、大きな励みになるに違いありません。」足元の悪い中をおいでいただき、説明会や催しに最後まで熱心にご参加くださった保護者の方々に、心よりお礼申し上げます。

平成24年度 聖心女子大学協力の会 総会開催

聖心女子大学協力の会は、在学生の父母、卒業生及び卒業生の父母が会員となり、長年に亘り聖心女子大学の教育環境を整備するために多大な支援を行っている。このたび、平成24年度の総会が去る6月16日(土)午後1時30分からマリアンホールにおいて開催された。

総会には、奥会長、宇野監事、諸戸監事が列席し、大学側から協力の会名誉会長である岡崎学長、北村評価・大学院担当副学長、佐々木学務担当副学長、岩上学生担当副学長、村松事務局長、年真経理部長が出席した。

議案の審議に入る前に岡崎学長から「協力の会のご父母の皆様には日頃より大学財政にご協力をいただき心より感謝申し上げます。学内での課題の中心は、本学の教育の質を保ち、向上させていき、社会に対して分かりやすく発信していくことである。学生の学習面などの環境を理想的なものにしていくために、学生の声を聴き、少しでも快適なものとなるように努めていきたい。また、課外活動においても、きめ細かな指導が大事であり、特に心の健康についてのケアが重要なことだと考えている。そのためにも財政基盤の整備は必須である。皆様にはこれまで同様にご協力、ご助言、ご指導をお願いしたい。」との挨拶があった。

次に、奥会長から「現在、秋入学など大学の制度改革が言われているが、大事なことは日本の高等教育の質を高めていくことだと考える。高等教育のみならず、初等、中等教育の質の向上が求められている。学校だけの問題ではなく、家庭とともに教育に対する関心を高めていくことが大事である。協力の会としては、聖心女子大学の教育の理念である知識と教養を高めた国際的な視野を持った、そして多様性のある女性を社会へ輩出していくこ

とに協力していきたい。ご父母の皆様におかれては引き続き深いご理解とご協力をお願いしたい。」との挨拶があった。

引き続き、議案の審議に入り、第1号議案「平成23年度事業報告及び決算について」は、大学事業への補助が合計42百万円行われたこととの説明があった。決算については、震災の影響等もあり、収入総計で予算比1、622千円の減収となったとの説明があった。

第2号議案「平成24年度事業計画及び予算について」は、大学事業への補助は23年度と同額の42百万円とし、全体では、23年度決算とほぼ同額となる見込であるとの説明があった後、第1号議案とともに一同に諮り承認された。

第3号議案「協力の会役員・監事選任については、正会員選出候補者4名、賛助会員選出候補者39名及び監事候補者2名について、関係する会則の説明があった後、一同に諮り承認された。」(総務部)



平成23年度決算 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

収 入				支 出			
項 目	予 算 A	決 算 B	差額 B - A	項 目	予 算 A	決 算 B	差額 B - A
前期繰越金	1,938,384	1,938,384	0	大学事業への補助	42,000,000	42,000,000	0
正会員会費	38,840,000	38,440,000	△400,000	学生配付品	790,000	786,000	△4,000
賛助会員会費	6,900,000	5,640,000	△1,260,000	事務費	2,790,000	1,966,346	△823,654
預金利息	8,000	5,063	△2,937	次期繰越金	2,106,384	1,311,101	△795,283
寄付金	0	40,000	40,000	総 計	47,686,384	46,063,447	△1,622,937
総 計	47,686,384	46,063,447	△1,622,937	前 受 金	-	930,000	-
				期 末 預 金 残 高	-	2,241,101	-

(注) 補助の内訳については、次のとおりです。

項 目	金 額 (円)
図書購入費 (シェイクスピア翻訳文学全集 (全45巻) 他)	14,000,000
課外活動費 (クラブ活動費等)	7,500,000
学生食堂経費 (食材費、光熱水費等)	7,000,000
奨学金 (外国人留学生を含む在学生への給付等)	12,000,000
保健センター、学生相談室経費 (健康診断等)	1,500,000
合 計	42,000,000

平成24年度予算案 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

収 入				支 出			
項 目	23年度決算 A	24年度予算 B	差額 B - A	項 目	23年度決算 A	24年度予算 B	差額 B - A
前期繰越金	1,938,384	1,311,101	△627,283	大学事業への補助	42,000,000	42,000,000	0
正会員会費	38,440,000	38,400,000	△40,000	学生配付品	786,000	770,000	△16,000
賛助会員会費	5,640,000	6,510,000	870,000	事務費(注)	1,966,346	2,160,000	193,654
預金利息	5,063	5,000	△63	次期繰越金	1,311,101	1,296,101	△15,000
寄付金	40,000	0	△40,000	総 計	46,063,447	46,226,101	162,654
総 計	46,063,447	46,226,101	162,654	前 受 金	930,000	500,000	△430,000
				期 末 預 金 残 高	2,241,101	1,796,101	△445,000

(注) 「聖心キャンパス」の発送費を含む。

財務状況報告

〔平成23年度決算状況〕

聖心女子大学の平成23年度決算は、収支のバランス状況を示す消費収支ベースで消費支出超過額が△46百万円（前年度の△88百万円よりマイナス幅が縮小）となり、この結果、翌年度繰越消費支出超過額（累積赤字額）は△295百万円となりました。

収入面では寄付金や補助金収入はやや増加したものの、在学生数減により学納金総額は59百万円の減少となりました。支出面では退職金支出の減少などもあり人件費全体で92百万円減少しています。

この他、教育研究経費に981百万円、管理経費に195百万円を支出し、それぞれ19百万円、3百万円減少しました。

23年度は、経常的経費の見直しをはじめ経費削減をこれまで以上に強力に進めた結果、前記のように経費の圧縮につながりました。引き続き支出超過額（累積赤字額）を早期に解消すべく、経費削減を図っていく所存です。

〔平成24年度予算について〕

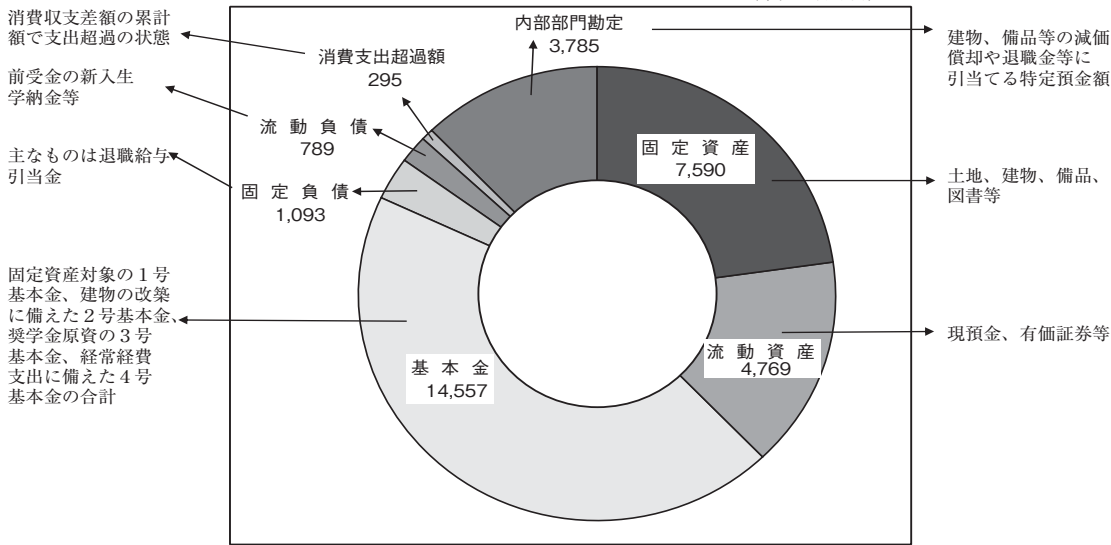
平成24年度は、収入面で引き続き厳しい状況にありますので、各部署には一層の経費抑制の意識をもって支出に当たるよう徹底しています。

また一方で、寄付金をはじめとした収入面での増収策を講じていく必要性を感じ、具体化に向けた検討を加速させていくこととしています。

なお、決算・予算について詳しくは、本学の公式ホームページに掲載しております。

平成23年度貸借対照表

（単位：百万円）



貸借対照表とは：期末時点の資産、負債などの総額を対照表示し、静態的な収支状況を表示したものの（資産、負債などの状況）

りますので、本誌では平成23年度決算の概要を掲載しています。（ここに掲載した内容は、本学全体の財務状況を分かり易く示したものであり、本学を含めた法人全体の財務の整理の仕方とは若干異なります。）
以上 経理部長 年真 基博

平成23年度消費収支計算書

科目	決算額	備考
学生生徒等納付金	2,501	寄付金前年比8百万円増加（現物寄付1百万円相当含む）
手数料	55	
寄付金	112	
補助金	236	補助金前年比19百万円増加
資産運用収入	86	
事業収入	172	
雑収入等	20	
帰属収入合計	3,182	
基本金 組入額	-91	建物、備品、図書等資産に組入れるものに対する当年度の支払額及び2号基本金の組み入れ額
消費収入の部合計	3,091	
人件費	1,863	退職金支出等の減により前年比92百万円減少
教育研究経費	981	
管理経費	195	教育、管理経費の減価償却費分の差が資金収支計算書との間で生じている
消費支出の部合計	3,137	
当年度消費支出超過額	-46	
前年度繰越消費支出超過額	-249	
翌年度繰越消費支出超過額	-295	消費収支差額の均衡が当面の課題

消費収支計算書とは：当該会計年度内の収支の均衡状態を明らかにするもの（収入と支出のバランス状況）（単位：百万円／未満は切り捨て）

平成23年度資金収支計算書

科目	決算額	備考
学生生徒等納付金収入	2,501	在学生数減により前年比59百万円減少
手数料収入	55	
寄付金収入	111	
補助金収入	236	主に学生寮の寮費収入で前年比2百万円減少
資産運用収入	86	
事業収入	172	
雑収入	20	24年度新入生の前受け納付金など
前受金収入	738	
その他の収入	131	有価証券売却収入等
資金収入調整勘定	-797	前期末の前受金などを調整する勘定
前年度繰越支払資金	1,193	
収入の部合計	4,446	
人件費支出	1,832	消費収支計算書の数字とは退職引当金繰入分（△31百万円）の差が生じる
教育研究経費支出	683	
管理経費支出	167	
施設関係支出	20	
設備関係支出	92	減価償却引当特定預金、第2号基本金等への繰入金
資産運用支出	552	
その他の支出	267	
資金支出調整勘定	-96	特定預金への繰入増により前年比264百万円減少
次年度繰越支払資金	929	
支出の部合計	4,446	

資金収支計算書とは：当該会計年度内の諸活動に関するあらゆる収入、支出の内容を表したものの（資金の出入り状況）

学生の力を被災地へ 聖心生による

被災地支援ボランティア

教育学科 准教授 永田 佳之



今年度から本学では国連のユネスコ本部との協働による東日本大震災被災地復興支援事業「Bringing Back Smiles Project」(心に笑顔を)プロジェクトを開始しました。被災地における教育復興支援を目的とし、ユネスコの委託を受けた聖心女子大学が本学学生をボランティアとして被災地(岩手県陸前高田市)へと定期的に派遣することを通し、教育分野における復興支援の一助となることを目指します。具体的な活動としては、現地で活動する中間支援団体PICOが土日に実施している被災児童のための遊び場「みちくさルーム」において、子どもたちの遊びや学習をサポートすることです。

ボランティアへの参加を希望する学生は出発前に学内で行われる事前研修に参加し、被災地への理解を深めます。同時に現地での遊びについて意見を出し合い、工夫を重ね、子ども達に心から楽しんでもらえる活動内容を考えていきます。学生は子ども達の遊びサポートの他、市街地見学や地元の方と交流する時間を持ち、被災地の理解を深めます。5月の派遣では夏に行われる「七夕祭り」で使う山車の飾りつけをお手伝いさせていただきました。飾りつけを手伝いながら、地元の方から震災当時のお話や現在の生活のこと、復興や七夕祭りにかける想いを傾聴しました。

これまでに参加した多くの学生が、実際に被災地に身を置き、考え、感じ、行動することを通して、なんとなく忘れかけていた「震災」を改めて見つめ直しています。被災地でのボランティア活動は7月以降も続いていきます。詳細はマグダレナ・ソフィアセンターで知ることができそうですので、ぜひ足を運んでみてください。

最後になりますが、本事業を軌道に乗せるまでに多くの方のご理解とご協力をいただきました。この場をかりて心よりお礼を申し上げます。



現地の支援組織のガイドで被災地を見学する本学学生

ジエネラルレクチャー

「心に響け《よきたより》
—聖書の新しい翻訳を通じて
見えてきたこと—
1年次センター長 深沢了子

6月20日のジエネラルレクチャーでは、山浦玄嗣氏による講演が行われました。山浦氏は自分のふるさと気仙地方の方言を、日本語と対等な独立した言語として「ケセン語」と命名し、その言葉で聖書を訳された方です。当日は2階席にも聴講者が詰めかけ、ケセン語を交えたユーモアたっぷりの講演を堪能しました。ケセン語訳聖書には「愛」という言葉が使われていません。従来の聖書ではギリシア語の動詞アガパオーを「愛する」と訳していますが、山浦氏は日本語の「愛」は自己本位的な感情であるとし、アガパオーの訳語に、感情とは無関係の「大事にする」をあてています。「汝の敵を愛せよ」は難しいことですが、「憎い敵でも大事にする」ことは可能でしょう。それが聖書の教えであった、と氏は述べられます。原典に立ち戻り自分で訳し直すことで、聖書本来の教えが見え、納得できるものとなりました。わからないものを見つけ、納得できるまで考えること。それは学問の原点です。本学の1年次生が、山浦氏の講演を心に留め、自分の学問をそれぞれに深めていくことを期待しています。

なお、山浦氏のおすすめの気仙地方は3・11の大震災で大きな被害を受けました。交通機関も復旧しない中、大変な行程で講演にいらしてくださった氏に深く感謝申し上げます。



「心に響け《よきたより》」

—図書館企画展示について—
(図書館事務部長 吉田 久治)

図書館では、蔵書をさまざまな視点から利用者の皆さんに紹介する展示企画を、年間を通して行っていますが、今年度第二回は、六月に開催されたジエネラルレクチャーでの山浦玄嗣氏の講演(上記記事参照)とタイアップして、山浦氏の著書の数々を展示しました。山浦氏は、新約聖書をギリシア語の原典から岩手県気仙地方のことば(ケセン語)で訳す、という全く新しい翻訳をされた方です。わたしたちが当たり前のように接している「聖書新共同訳」はじめ多くの日本語訳聖書は、漢語系の造語による機械的な翻訳が多く、それが日本における聖書の理解を妨げてきた、と山浦氏は言います。その意味がわかったように、実はよくわからない、それを「わかったような気になっっているのはおかしい」と、いつも思っていた氏は「ふるさとの仲間」にふるさとのことばで「ギリシア語の原文にある聖書の原義に遡って、イエスの福音を伝える」という大事業を完成させたのです。「自分たちにとつて当たり前のことば」に翻訳された福音は、「よきたより」として、わたしたちの心に響くのです。岩手県気仙地方は東日本大震災で大きな被害を受け、山浦氏の著書出版する岩手県大船渡市のイー・ピックス出版も壊滅的な打撃を受けました。震災後に図書館が購入した山浦氏の著作は津波を被った倉庫から運び出され、多くのボランティアの手で再生されたものなのです。展示中の本は、貸出も可能ですので、お気軽に図書館スタッフに声をかけてください。



「いのちの絆をたずねる」

—キリスト教文化研究所公開講演会—
講師 鈴木 秀子氏
(聖心会会員
・本学元教授)

六月九日(日)、本学による大震災復興支援の取り組みとして開催された「震災復興支援チャリティデー」にあわせて、今年度の公開講演会を開催しました。今回の講演会の企画は、昨年の秋の聖心祭で開催した卒業生によるシンポジウム(3・11と私たち)私たちの祈り・願い・希望)に続いて、「フォーラム2011」のシリーズとして開催されました。これは、昨年発生した大震災とそれに伴う被害や原発事故によって、私たちの生き方や社会のあり方が大きく問い直されている中、それぞれの思いを分かち合い、つながりを見いだす「広場フォーラム」を設けるものです。講師の鈴木秀子氏は、様々な講演会やセミナーを通じて、人々に生きる意味や自分の存在価値を見いだす手助けをされていますが、今回は、震災直後から被災地に入られ、きびしい現状を生きている人々の思いに耳をかたむけ、手をさしのべる中で見いだされた「命のきずな」についてお話いただきました。お話しは、震災当初の極限状態における行動に現れた他人を思う気持ちの尊厳から、長引く困難な状況の中でずれ違い、引き裂かれていく思いなどに及びました。そして、人と人の絆は尊厳と同時に脆いものでもあり、真の「いのちの絆」は新たに見いだされ、結び直されていくべきものであるというお考えが示されました。終わりに、シスターの体験をもとに作られた合唱曲「そして、春は福島から世界へ」(黛まどか作詞・千住明作曲)を聞きながら、それぞれの思いを確認するひと時をもって、講演会の良い締めくくりとなりました。当日は、あじくくの天気の中、一五〇名近い参加者があり、シスターのお話に感銘を受けながら耳をかたむけておられました。シスターのお仕事に関心を持つ外部の一般の方、チャリティーとあわせていらした卒業生や姉妹校生徒など、従来のキリスト教文化研究所の講演会にはあまり見られない聴講者も見られました。キリスト教大学としてこのような講演会をすることはすばらしいといった一般の方の声もあり、こうした場をこれからも設けていきたいという思いを改めて強くしました。



学長

オフィスパワー



今回からこのコラムに書かせていただくことになりました。どうぞよろしく

お願いいたします。学長と読者とのコミュニケーションのコーナーだと思いますが、コミュニケーションとはいつでも誌上です。双方向にはできず、もっぱら学長の側からお話ししたり、お伝えしたりすることになります。

オフィスパワーとは、一般に、大学などで教員が一定の時間を定めて、学生が質問や相談のために自由に教員の研究室を訪れることができるようにするシステムのことをいいますが、大学に限らず、ある市では市長が市民のために、オフィスパワーを設けてコミュニケーションを図ろうとしているところもあるようです。さまざまなソーシャルメディアを手段としたネット上のコミュニケーションが可能になっている時代ですが、顔と顔を合わせて、互いに声や表情も感じながら直接話す機会もとても大事でしょう。

私は昨年10月に学長となり、新しい仕事や会議などに追われてなかなか時間をみつめることができませんでした。オフィスパワーを始めたいと思います。大学の主役は学生の皆さんです。いろいろな声を聴きたいと思っています。個人でもグループでもOKです。学長秘書室で時間調整をしてください。お待ちしています。

(聖心女子大学学長 岡崎 淑子)

新任教員紹介

◇平成23年度
英語英文学科英語英文学専攻

藤井 彰子 講師



- ①基礎課程演習、2年英作文、3年英語学演習、英語科教育法Ⅰ、英語学特講、4年英語学演習、英語学研究
- ②ジョージタウン大学大学院 博士(言語学)
- ③国際基督教大学特任講師、ジョージタウン大学夏期英語プログラム講師、海城高校、東京大学非常勤講師
- ④英語教育学。日本の学校教育の様々な制約の中で、実現可能で効果的な英語指導法や教材の研究がテーマです。特に学習者同士が英語で行うコミュニケーション活動、学習者自身が自律して英語を習得する力の育成が研究対象です。
- ⑤学生時代、スコットランドのエディンバラという街に留学したとき、ヨーロッパの様々な国の学生と交流したのがとても刺激的でした。学生の皆さんも、これから数々の素晴らしい出会いに恵まれるでしょう。必要になったときに、話しの内容にも言葉にも自信を持って、堂々と世界の人々と英語で交流できるように、少しでも手助けができればと思っております。趣味は、自然食作りです。

歴史社会学科国際交流専攻

畑 浩一郎 講師



- はじめまして、よろしくお願ひします。
- ①1年フランス語(文法)A、フランス社会文化演習Ⅰ、Ⅱ、フランスの社会と文化(Ⅰ)、(Ⅱ)
- ②東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学
- ③パリ第4大学(ソルボンヌ大学) 博士課程修了、博

士(文学)

③東京大学助教

- ④専門は19世紀フランス文学、とりわけ文学におけるオリエンタリズムを研究しています。一般にオリエンタルと呼ばれる地域、つまりトルコやエジプトといった近東の国々を旅したフランス人作家が、西洋とは異なる人々や風物をどのように眺めたのかといった問題を、彼らが執筆した旅行記を手がかりに考えています。
- ⑤趣味は登山です。今はしばらく遠ざかっていますが、かつては夏休みには毎週のように北、中央、南アルプスや八ヶ岳に入り、テントや食料でパンパンになった重いザックを担いで何日も縦走していました。山の中では時折、息を呑むほど美しく壮大な光景に出逢うことがあります。そういう時には、ここは本当に日本なのかと不思議に思うほどでした。苦勞して登っただけに与えられるかけがえない体験です。授業では、自ら学ぶ姿勢を身につけてもらえるよう頑張りたいと思います。

◇平成24年度
歴史社会学科国際交流専攻

仲居 宏二 教授



- ①基礎課程演習、異文化間コミュニケーション論、国際コミュニケーション論、メディア特講、異文化間コミュニケーション論演習、オムニバス講座(国際交流入門、国際交流概論)
- ②早稲田大学第一文学部哲学科
- ③NHK放送総局エグゼクティブ・プロデューサー、NHKエデュケーショナル常務取締役、ボツワナ政府・教育テレビ創設コンサルタント、聖心女子大学非常勤講師
- ④国際貢献論、日本アフリカ関係、国際コミュニケーション論。特に現代のアフリカの課題、問題などを日本との関係で展望し今後の関係を構築する道を探る

平成23年度及び平成24年度計四名の新任教員をご紹介します。次の各項目について答えていただきました。

①担当科目 ②最終学歴 ③職歴 ④研究テーマ ⑤趣味、特技、抱負等

ことです。現場体験、経験を生かしそれを理論化します。特にメディア等のソフト・インフラなど、コミュニケーションから今後の新しい関係を求めます。

⑤見て歩き(旅行、サファリ)。いかにも知らないことが多いかの発見は尽きません。遠い昔の学生時代に、「人は知れば知るほど、いかに自分が無知であるかを認識する」と教わりました。この精神が、未知なるものへの無限の知的欲求になると思います。情報過多とか知りつくされている時代とか言われていますが、この好奇心を学生さんたちと共有し、全開させたいと願っています。そして、事実、真実に近づいて行く方法論を共に身につけていきたいです。

教育学科教育学及び初等教育学専攻

西原 直枝 講師



- ①家庭科教育法、生活科概論、家政学概論、教育情報基礎演習Ⅰ、教育学演習
- ②お茶の水女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了、博士(学術)
- ③日本学術振興会特別研究員PD、RPD(早稲田大学)、早稲田大学理工学研究科次席研究員(研究院講師)、都留文科大・千葉大・東京家政大・東京都立短期大学・早稲田大学高等学院非常勤講師
- ④衣服や住まいなどの身近な環境が、人間の健康・安全性、快適性、くらしの質に与える影響を、エネルギーの観点とともに研究しています。くらしを科学的にとらえる力や生活者の視点を養い、いかすことで、地球環境問題をはじめとした、現代のさまざまな課題の解決に少しでも寄与したいと考えています。
- ⑤美しい自然に恵まれたキャンパスにて、皆さんとともに、生活環境にかかわる教育について考え、取り組むことができます。嬉しく思っております。趣味はフルートを吹くことですが、最近はずつかり遠ざかってしまいました。音楽を聴いたり、散歩したり、といったリラックスした時間を大切にしています。

課外活動紹介

学生会役員会

皆さんこんにちは。私達学生会役員会は、各学年5人から構成されており、3号館地下1階で昼休みを中心に活動しております。

活動内容は、入学式・卒業式の手伝いをはじめ、学生会費・援助金の管理、課外活動の統括、さらにクリスマスチャリティイベントと呼ばれる慈善活動を行っております。

また、今年度からの試みといたしまして、意見ボックスの設置、レクリエーションルームをより快適な空間にするためのサポートも行っております。

アートクラブ

アートクラブでは、とにかく好きなように絵を描いていきます。一軒居が高い、「絵を描きたいけど下手だから」と敬遠するのはもったいない！油彩・水彩・デッサン・立体・イラスト・漫画・切り絵：上手下手にかかわらず自分のやりたいこと、挑戦したいことをやってみよう！また、絵を描く土で基礎であるデッサン力向上のために、1人をモデルにして皆でスケッチするという時間を設けています！

さらに、先生がとても優しく丁寧に指導してくださいませ！夏夏期休暇には、他大学の美術部との合同展に参加するなど、活発な一面も少しでも興味のある方！私達は毎週火曜日17時から、活動しています。主に1号館の219教室で活動しておりますので、気軽にいらしてください！また、今年の聖心祭では、部員たちの力作を展示する予定です。今年の方も、ぜひ見に行ってください！部員一同お待ちしております。

ESS

私達ESS (English Speaking Society) は、英語ディスカッション能力の向上を目標に、Speech Debate Discussion (SDD) のセッションに分かれて、毎週火・木・金曜日を中心に大会参加に向けて活動しており、春・夏合宿、聖心祭など部員全員での行事参加も行っています。このような活動を通して、英語力はもちろん論理的思考能力や社会性、協調性を養っています。また、ESSは全国規模の交流がある団体ですので、他大学との交流も盛んです。また、12月9日には本学のマリアンホールにて、Spirit makes the world、という大会テーマのもと、英語全国参加者を募り、第46回聖心女子大学学長杯争奪英論大会を開催する予定です。興味を持たれた方はななでもお気軽に、大会見学にいらしてください。

SCE 聖心異文化交流会

みなさんこんにちは。私たちは昨年度まで異文化理解を深めることと留学生のサポートという活動を行っていましたが、今年度からは異文化理解を深めることに専念する活動方針となりました。異文化には自分の興味のある異文化について考えていき、自分の中の「異文化」の意味を追究することです。異文化、という言葉は幅広い意味で使えるからと、自分の中で自分なりに理解を深めていくことを目標としています。また、テーマに沿ってアクティビティをし、全体でテーマについて考える活動も行っております。今年度から新しい活動方針により活動もはかどりですが、異文化交流、異文化理解に興味のある方はお気軽にご連絡ください。皆さんのお越しをお待ちしています。

クロワソンの部

プレゼントやおしゃれの一つとして、七宝焼きのアケセカリを作ってみませんか？クロワソンのフランス語で、七宝焼きを意味し、当クラブでは、アンティークガラスのような七宝焼きを作ります。指輪などの小物から、プロッチといった凝った作品まで、部員が各々のアイデアを生かして製作を楽しんでいます。年に数回はコーチの先生に指導していただく、かなりのスキルアップが待っています。聖心祭では部員が製作した作品の展示や販売、体験会を行っています。部費は材料や講習会費を含み月額数百円程度、活動日は自由です。随時体験を受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

手作り小物クラブ

私達手作り小物クラブは、毎週火曜日と金曜日の昼休みに活動しています。ビーズを使ったアケセカリ等、自由に行われる聖心祭で、流行を取り入れたおしゃれな作品を販売しています。簡単なイヤリングやピアスを作る無料体験を行っています(作品は持ち帰ることができます)。興味がある方は、ぜひご参加ください。もちろん、経験者の方だけでなく、初心者の方も大歓迎です！部員一同、心よりお待ちしております。活動場所やイベント情報は、ホームページや学内掲示板で確認ください。

ゴルフ部

私達体育会ゴルフ部は、年2回行われる春と秋のリーグ戦を目標とし、早朝打撃練習・トレーニング・月例ラウンドと、キャディーのアルバイトを行っております。現在は春季リーグ戦の結果によりCブロックに所属し、秋季リーグ戦ではBブロックに昇格できるよう、日々切磋琢磨して練習に取り組んでおります。新たに加わった部員ともに、最大限の力を発揮できるよう、さらに練習に励んでいこうと思っております。部員の大半が初心者から始めているので、経験者はもちろん、初心者でも大歓迎です！少しでも興味のある方は見学にいらしてください！

大極拳部

私達大極拳部は、簡化24式太極拳と32式太極剣の練習をしています。太極拳と聞くと、「なんだかグサグサ」とお思われる方が多いと思います。しかし、意外にも挑戦してみると、いつの間にか太極拳の魅力に引き込まれる人もいます。6月15日・18日に開催された「第29回全日本武術太極拳選手権大会」では、本学4年生1名とOG1名の計2名が出場しました。大会では、社会人選手のレベルの高いパフォーマンスを見ることができ、大変良い刺激となりました。太極拳部は毎週月曜日の5限、水曜日の5限、金曜日の昼休みに体育館で練習しています。興味のある方は是非見学や体験にいらしてください。まだまだ部員募集中です。

オーケストラクラブ

オーケストラクラブでは、現在も学年を問わず部員を募集中です。毎週木木の放課後1号館2階で活動しています。気軽に見学にいらしてください。6月24日(日)には本学マリアンホールにて「第36回グリーンコンサート」を開催いたします。OGの皆様をはじめ、多くの方にご賛助いただき、すばらしい演奏会にすることができました。ありがとうございました。今後の活動は、聖心祭でのミニコンサート、11月には本学マリアンホールにて「第48回定期演奏会」を開催予定です。まだまだ聖心祭の演奏を聴いたことのない方も、是非お越しください。皆様のこみ場を心よりお待ちしております。

ギターアンサンブル

私達ギターアンサンブルクラブは、主にクラシックギターを使いクラシックからポップスまで様々なジャンルの曲を演奏しています。10月に行われる聖心祭では野外ステージと宮内ホールでの演奏を予定しています。また、12月9日(日)に宮内ホールにて第43回定期演奏会を行う予定です。これらの発表に向け、毎週火曜日と金曜日の週2日、うち1日はコーチをお招きして練習に励んでいます。3年生4人、2年生4人そして今春新たに加わった5人の1年生の計13人で活動しています。少人数でもアツトホームなクラブです。ギターに少しでも興味がある方は、学年を問わず部員募集集中ですので、ぜひ見学にいらしてください。

グリークソング

私達グリークソングクラブは、年2回コンサートを行い、合唱曲はもちろんのこと、ミサ曲やミュージカル曲など幅広いジャンルの曲を歌っています。6月には第51回定期演奏会を開催し、ミュージカル「美女と野獣」などを演奏しました。ご来場いただきました皆様にも感謝いたします。12月15・16日にはクリスマスコンサートを行います。皆様お誘い合わせの上、ぜひお越しくださいませ。また、部員もまだまだ募集中です。歌やピアノ、音楽が好きなら、ぜひ一度見学にいらしてください。お待ちしております。

ミュージカル研究会

年に3回のペースで既存のミュージカルをもとに上演してきます。「We go Song Story」「Cats」「Roméo and Juliet」など過去に19回の公演をマリアンホールで行っています。前回は先月6月に「That's Entertainment」を上演いたしました。次の公演は11月を予定しております。是非お越しください！活動は公演前に昼休みと放課後に行っています。私達ミュージカル研究会はいつでも学年を問わず部員を募集しています！舞台を通して学年を超えた繋がりができ、強い絆が生まれます！歌やダンスなどの経験の有無にかかわらず、舞台上に興味のある方！是非気軽に見学にいらしてください！また、照明・音響・大道具・衣装スタッフも募集中です！

クリケット同好会

クリケットとは野球の原型で、競技人口は世界第2位という、国際色豊かなスポーツです！日本の競技人口は多くはないのですが、一度入り込むとその魅力にはまってしまうこと間違いなしです！その魅力にはまったら、CRICKETSの自慢は、何と言っても元氣と仲の良さ！上下関係も気にしないほどの仲良しです。私達は、ひと夏をかけて行われる学生選手権の大会を目標に練習に励んでいます。練習は、毎週日曜日に青山学院大学、昭和女子大学と合同で行っています。また、合宿や試合、様々なイベントを通して、他大学のクリケットサークルと交流を深めることもできます。興味を持たれた方は是非一度見学にいらしてください！

能楽研究会

皆さんこんにちは。能楽研究会です。私達能研は、聖心祭と11月の定期発表会に向けて日々パレドスにて練習しております。活動日は毎週火曜日の昼休みです。能楽ってよくわからないイメージですが、実際にやってみると心身共に鍛えられ、スポーツ感覚で楽しむことができます。部員は全員初心者で、もちろんプロの方が優しく教えてくださいます。今年も銀座能楽堂にて「小鍛冶」を上演する予定です。少しでも興味を持たれた方は是非パレドスに遊びに来てくださーい！

SHRET

私達SHRETは、難民の中等教育を支援するため3つのプロジェクトに分かれてそれぞれ週一回のミーティングを始め、様々な難民のイベントを企画し、他団体のイベントにも積極的に参加しています。毎年春にSHRETの一年間の活動報告を行う場としてSHRET祭を開催しており、今年度はSHRET設立10周年を記念して、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日大使のヨハン・セルス様をお招きし、ご講演いただきました。活躍をされている方の貴重なお話は部員を始め、SHRET祭にいらしたお客様、会場全員が改めて難民支援の重要性に気づかされた大きなイベントになりました。今後もSHRETを温かく見守っていただきますようお願いいたします。

英語英文学科主催 『マクベス』 公演

英語英文学科 教授 中川 僚 子

二〇一二年五月二八日マリアンホールにて、英語英文学科主催「国際化推進のための公開講座」として、英国劇団インターナショナル・シアターカンパニー・ロンドン (ITCI) による公演が行われました。

満場のお客様をお迎えして、ユニークな演出によるシェイクスピア悲劇『マクベス』を堪能していただくことができました。ご協力くださいました皆様には厚く御礼申し上げます。

公演は皆さんで八日間展示された英文生および英文科目を受講中の一年生、大学院生、大学院修了生が制作した『マクベス』に関する手作りの作品やポスター、研究発表は、ご来場の皆様、そして劇団員の方々にたいへん好評でした。同時に中高生・大学生対象の劇評コンテストも実施されるなど、とても有意義な催しとなりました。



キャンパスだより

■科学研究費助成事業(科研費)の採択

本学専任教員が申請した平成24年度科学研究費助成事業(科研費)は、次の12件が採択となりました(平成24年6月現在、研究種目順)。

- ① プレンダ・ブッシュ教授(英語英文学科)「ネットワーキングに基づくネパール型循環型発展社会システムの構築に関する研究」(基盤研究(B))
- ② 永田佳之准教授(教育学科教育学)「アジア諸国における教育の持続可能性とレジリエンスに関する総合的研究」(基盤研究(B))
- ③ 扶瀬幹生教授(英語英文学科)「デジタル情報検索を活用した『フイネガンズ・ウェイク』のテキスト生成過程研究」(基盤研究(C))
- ④ 山口昭彦准教授(歴史社会学科史学)「近代イランの地主と農民」(基盤研究(C))
- ⑤ 富原真弓教授(哲学科)「フランシユヴィックのスピノザ解釈がシモーヌ・ヴェイユの思想成型に与えた影響」(基盤研究(C))
- ⑥ 小柳智一准教授(日本語日本文学)「意味・統語・形態の総合的観点から行う古代日本語の副助詞の研究」(基盤研究(C))
- ⑦ 向井隆代教授(教育学科心理学)「児童養護施設入所児童のサクセスフル・アダプテーションを支える要因・追跡研究」(基盤研究(C))
- ⑧ 高橋雅延教授(教育学科心理学)「日本人女性心理学者と欧米の心理学者の交流史に関する質的研究」(挑戦的萌芽研究)
- ⑨ 石井洋子講師(歴史社会学科人間関係)「東アフリカ農村の水資源開発と社会的対応に関する比較研究」(若手研究(B))
- ⑩ 畑浩一郎講師(歴史社会学科国際交流)「19世紀フランス文学における異郷」(若手研究(B))
- ⑪ 西原直枝講師(教育学科教育学)「タスクアンビエント空調における人体局所冷却と呼吸域空気質が知的生産性に与える影響」(研究活動スタート支援)
- ⑫ 河邊貴子教授(教育学科教育学)「保育記録の機能と役割」(※刊行物の名称) 研究成果公開促進費(学術図書)

■平成24年度情報・システム研究機構「研究者交流促進プログラム」の採択

英語英文学科の扶瀬幹生教授が申請した平成24年度情報・システム研究機構「研究者交流促進プログラム」が採択となりました(受入研究所・国立情報学研究所、研究期間・平成24年4月1日～平成25年3月31日、研究テーマ・Finnegans Wakeのテキスト生成過程データを統合する電子アーカイブの試作)。

■学生生活課

●学生生活課

救急救命法講習会

日時 7月11日(水)17～19時

場所 41番教室

対象 課外活動団体のうち体育会系15団体から代表者二名が参加

講師 YWCA

●キャリアセンター

7月30日(月)卒業生情報取得説明会・OG訪問 マナー講座

9月28日(金)第二回進路ガイダンス

10月2日(火)就職活動スタートセミナー実践編

10月9日(火)SPI模擬テスト

10月21日(日)聖心祭・卒業生によるパネルディスカッション

10月12月(月)エンタリーシート対策講座

●国際センター

8月初旬 海外語学研修でアメリカ・イギリス・カナダ・韓国・台湾・フランス・ドイツの10大学へ約100名の学生が順次出発、約3～4週間の夏期研修に参加

8月下旬 平成24年度派遣留学生6名が出發。イギリス、フランス、アメリカの協定校または認定校へ半年～1年間の留学

9月12日(水)

15日(土)English Summer Camp実施

9月22日(土)TOEFL iBTテスト

9月下旬 平成24年度後期短期留学生受入れ

10月22日(月)留学説明会

10月23日(火)春期スペイン語学研修説明会

10月24日(水)平成24年度秋出發派遣留学生選考

審査

10月26日(金)海外語学研修帰国報告会

12月中旬 International Week開催

平成25年度夏期海外語学研修説明会

2013年1月中旬 留学生日本語スピーチ

※「Lunch in English」(学生ワークショップ)は後期も引き続き開催します。

●マグダレナ・ソフィアセンター

6月16日(土)～17日(日)／7月7日(土)～8日(日)

聖心女子大学・UNESCO共催 陸前高田

支援ボランティア学生派遣(事前事後研修あり) 8月以降は月2回の派遣を予定

8月2日(水)

3日(金)夏季手話入門講座(2日13～16時

／3日10～16時)

8月5日(日)広尾商店街にて広尾打ち水大作戦

2012開催(MSSS参加)

10月21日(日)聖心祭主日ミサ(14時～聖堂)

10月25日(木)感ずべき御母の祝日ミサ(12時15分～聖堂)

11月8日(木)追悼ミサ(12時15分～聖堂)

11月22日(木)聖フィリピン・ドゥシエーンの祝日ミサ(12時15分～聖堂)

(学期中は、毎木曜12時15分から学生ミサを行っています)

●夏期休業中の事務室開室時間

平日は午前九時から午後四時まで(土曜日、日曜日は休業)

また、八月六日(月)から八月十日(金)は、全学一斉休業となります。

不二農園の新茶

不二聖心女子学院に併設されている不二農園の新茶が今年もできました。

特上緑茶をはじめ、ほうじ茶、ご好評の紅茶もご用意しております。

お申込みは電話、FAX、インターネットで。

http://www.seishin-fujinonen.jp

TEL・055-992-0213

FAX・055-993-6937



宮代会だより

同窓会宮代会では、母校とのつながりを大切に様々な活動を行っております。

【宮代会館事務室の紹介】宮代会館を入って階段を下りると正面に事務室があります。スタッフが卒業生の名簿の管理、会館で行われるお稽古や様々な活動のサポートなどを行っています。事務室では、不二聖心のお茶、カリンブルーメのお菓子、東北の味噌関連商品などの食品の他、履歴書、白手袋なども販売しており、学生さんどうぞご利用ください。

【宮代ショップ】皆さんの学生生活の助けになればと文具やちょっとした必需品、履歴書、ホーリーグッズなどを置いてお待ちしております。今年はTシャツもデザインを一新しました。どうぞ、気軽に覗いてみてください。

こんなものが欲しいなど、ご要望がありましたら、販売スタッフにお声かけください。皆さんの声を大切により良い宮代ショップを目指しています。

【東日本大震災復興支援チャリティー協賛】

大学関係者、学生、姉妹校、同窓会が一丸となつてチャリティーに参加させていただきました。昨年の義援金に続き、聖心ファミリーを感じる事ができ、とてもよい経験となりました。これからも持続的な支援につなげていけるよう努めてまいります。

【留学生との昼食会】今年も大学構内で学んでいる留学生とサポートの学生さんたちを招いて、昼食会を開催しました。学長、副学長、国際センター長、また、日本料理、着付け、生け花など日本文化を紹介して下さっている先生方にもお声をかけて、同窓生手作りのお料理やお菓子を持ち寄りました。上手な日本語で自己紹介をする留学生の姿に感心しながら、楽しいひと時を過ごしました。

【奨学金給付】大学から推薦された史学専攻の将来有望な大学院生お一人に宮代会奨学金を給付いたしました。

発行 聖心女子大学 〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1 TEL 03-3407-5811 (代表) 編集 聖心女子大学企画部 発行年 4回 (3・5・7・11月)

震災復興支援チャリティデーの報告

— 東北を忘れない。これからもずっと。 —

実行委員会委員長 小城 英子 (歴史社会学科人間関係専攻准教授)



去る6月9日(土)、震災復興支援チャリティデーが開催されました。このイベントは、復興支援活動の一環として行われたもので、聖心スピリットのもと、大学の在学生・教職員を中心に、姉妹校、卒業生、聖心会、法人本部、聖心ファミリーが一丸となって、「被災地の今」を学ぶ研究展示、東北の経済をサポートするための物産展、資金を得るためのバザー、アトラクションの公演を行いました。当日は、あいにくの雨にもかかわらず、およそ1,000人もの方々にご来場いただき、大盛況となりました。おかげさまで東北物産展は完売、バザーの収益は¥776,105に上りました。収益は、被災地のボランティア・コーディネートを行っているカトリック東京ボランティアセンター (CTVC: <http://www.jlmm.net/ctvc/>) への寄附とさせていただきます。

東北物産展のために、わざわざ石巻から駆けつけてくださった地元の業者さんは、実はこれからが先の見えない苦難の道りであること、しかしながら、単に以前の姿に戻るのではなく、震災を機に、地元業者同士で連携して「新しい再生」を目指していることを語っておられました。この時期に入ると、被災の実態は、瓦礫の山のように目に見

える形ではなく、地元経済の低迷とともに、PTSD、うつ病、アルコール依存症、自殺、孤独死といった、目に見えない形へと変化していき、必要とされる支援も一律ではなくなることが指摘されています。現地へのボランティア派遣とともに、「被災地の今」を非被災地に伝え、東北の経済を支援する広報活動を、重層的に展開できればと思います。

聖心ファミリーのすべてが一堂に会したのも、画期的な試みでした。遠方の札幌聖心女子学院と小林聖心女子学院も、研究展示やバザーへの出品で参加していただき、しっかりとお心を届けてくださいました。聖心女子学院初等科の児童が、大学生の指導を受けながら、「花みやび」(課外活動団体)の生け花を体験していたり、札幌聖心女子学院の研究展示の前でOGが記念撮影をしていたり、大学の卒業生がバザーの教職員テーブルで恩師と再会していたり、ほほえましい光景があちらこちらで見られました。年代や立場を超えて、全員が聖心スピリットで結ばれていることを実感し、心温まるひと時となりました。

最後は、聖心女子専門学校の聖歌隊による「レクイエム」と「アヴェ・マリア」を聴きながら、全員が鎮魂の祈りを捧げ、復興支援の思いを新たにしました。ご協力いただいた皆様に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



予告 第48回 聖心祭 ☆「Share;heart to heart」

第48回聖心祭実行委員会委員長

私たち聖心祭実行委員会は、10月20日(土)・21日(日)に開催される聖心祭に向けて日々活動しております。

聖心祭は今年で48回目を迎えます。今年度のテーマは☆「Share;heart to heart」といたしました。「聖心ならではの・聖心の魅力を伝える」こと、そして「東日本大震災への長期的な支援」を目標にしています。これは聖心祭実行委員や参加団体、お客様、聖心祭に関わるすべての方々と、喜びや感動などの思いをShare (共有) したいという思いが込められています。副題のheart to heartには、「率直な・誠意のある」という意味があります。聖心らしい温かさや真心を持ってお客様をお迎えしたいという願いが込められています。先の震災から一年以上が経ちましたが、この記憶を忘れることなく、被災地への思いを皆様とShareしたいと考えております。そして聖心のHeart、お客様のHeart



をチャリティーという形にして東北へお届けいたします。

また聖心祭では、創立者マダレナ・ソフィア・バラの精神に基づき、収益金を毎年全額寄附しております。今年度はカリタス・ジャパンとセ

ーブ・ザ・チルドレンの2団体を通して、東日本大震災の復興支援にあてられることが決定しております。

さらに今年度は、聖心生の学生達にもぜひ足を運んでもらいたいという思いから、新しい企画やイベントを多数実施することにいたしました。聖心生の魅力をお伝えするための野外ステージ企画「Lady of the Sacred Heart」、被災地の学生と本学の学生とのコラボレーションでお送りするチャリティーコンサートなど、どれも楽しんでいただけるような内容となっております。どうぞ皆様お誘い合わせの上、お気軽にお越しください。



ご来場いただいたすべての方々にご満足いただける2日間となるよう、一丸となって準備に取り組んでおります。学生、委員一同、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

